

知事臨時記者会見

■日時 令和3年6月4日（金）15:40～16:00

■会場 応接室

【発表事項】

1 新型コロナウイルス感染症への対応について

私から、今後の感染対策の方針について、こちらのスライドを使いながら、お話しいたします。

まず、病床の使用率であります。一時期は90%を超えるという危機的な状況にありましたが、先週の段階で49.2%、今週は32.1%と順調に下がっております。

また、重傷者の病床使用率ですが、一時期は50%を超えて、ステージ4のレベルにありましたが、先週は34.7%、そして今週は20.4%と、こちらも低減傾向にあります。

ただ、この二つの指標は、いずれも依然としてステージ3であります。そして、その他の指標はステージ2以下でありますので、現在、福島県のステージ判断はステージ2相当ということになります。

この状況において、「人口10万人当たりの1週間の新規陽性者数」ですが、5月12日には25.30人とステージ4のレベルに達していました。

そこから非常事態宣言を発出して、順調に低下傾向となり、現在、4.39人です。

続いて、こちらは会津若松市の折れ線グラフになりますが、非常事態宣言を発出してから、着実に減少しましたが、先週段階においては、ちょうど下げ止まりしていた状態で、1週間前に私と（会津若松市の）室井市長が判断する際には、むしろ若干微増の傾向にあったということで、1週間対策を延長したところであります。

ただ、その1週間の間に減少しまして、現在、ステージ4のレベルを下回って、21.70人まで下がったところであります。ただ、会津若松市においては、まだステージ3の状態が継続しています。

福島県内の他の地域は、ステージ3以下でも相当の方のレベルにあり、会津若松市はまだ安定的な状態とは言えませんので、今後とも感染対策に留意していただく必要があるかと思えます。

続いて、こちらは会津と南会津の医療圏における病床使用率です。一時期は（病床使用率が）70%を超えるという厳しい状況でしたが、その後、着実に下がり、現在46.5%です。

こちらはステージ4の目安を超えて下がったということになりますが、ただ、こちらも先ほどの指標と同様に、ようやくステージ4からステージ3のレベルになってきたところでありまして、まだステージ4に近い状況にあります。したがって、依然として予断を許さない状況です。

特に、この病床の関係であります。会津地域では、元々コロナ対応を担っていただいていた中核的な病院に加え、地域の医療機関が懸命な努力をする中で、こういった病床の確保が可能となり、患者さんをできるだけ近い場所で受け入れることができました。改めて、地域の医療機関の皆さんのこれまでの御努力に、心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

このように、会津若松市において1週間の集中対策をとった結果、着実に指標が改善しておりますので、予定どおり6月7日をもって、こちらの集中対策を終了いたします。

その上で、今後、59市町村、福島県内の全域を対象とした重点対策に取り組んでまいります。

重点対策として、県民の皆さんには、まず基本的な感染対策の徹底をお願いします。そして感染リスクの高い行動、特に緊急事態宣言、あるいはまん延防止等重点措置が発令されている地域との不要不急の往来は、控えていただきたいと思います。

そして、事業者の皆さんには、ガイドラインに基づく感染防止対策の徹底などを、しっかりと

行っていただければと思います。

こういう状況の中で大切なことは、感染の再拡大、リバウンドを防いでいくことでもあります。

これまで県民の皆さんの御努力、事業者の皆さんの御協力によって、感染拡大に歯止めをかけることができました。

この6月の1か月間における大事な目標は、再拡大をさせない、リバウンドをさせないということでもあります。

特に変異株の影響が色濃く見られる状況にありますので、気を緩めることなく、これからも基本的な感染防止対策を継続しながら、今後、地域経済、地域社会の維持・再生の段階に入っていきたいと考えておりますので、引き続き、県民の皆さんの御協力をよろしくお願いいたします。

【質問事項】

1 東京オリンピック・パラリンピックについて

【記者】

リバウンドに関して、県民の方が多く懸念する材料としてオリンピックがあると思います。リバウンドを懸念する状況の中で、今のところ（開催が）予定されており、一方で、専門家からは「普通この状況で（の開催）はないだろう」との指摘もある中で、知事として現在の考えを伺います。また、開催される場合、こういった対策を求めるかについても併せて伺います。

【知事】

昨今、東京オリンピック・パラリンピックを開催するに当たって、感染防止対策との関係、あるいは緊急事態宣言等が全国で発令されている中で、今後どうなのかという様々な不安、御懸念があるという状況を、私自身、連日の報道等で拝見しております。

一番大切なことは、感染が拡大するのを防ぐ、そして本県は結果的に独自の対応で何とかここまで感染状況を下げることができた訳ですが、まだ全国においては厳しい状況で、今も感染が拡大している地域があります。そういう中で、やはり人流を防ぐ、人の流れを防止することが、感染拡大を防ぐ一つの核になっていますが、どうしても大きなイベントである東京オリンピック・パラリンピックを行うことによって、人流が生じてしまうという部分があり、それに対して専門家の皆さんから、より高度な安全対策が必要だという御指摘も出ているかと思えます。

現在、組織委員会、政府、また東京都等が、今回、東京オリンピック・パラリンピックを開催するに当たって、「こういった安全対策をしていくことがベストなのか」ということを正に議論を深めておられると聞いています。大切なことは、7月21日が競技の初日、23日が開会日ということになりますが、本当に一日一日、そのデッドラインが近づいておりますので、福島県もソフトボールと野球の競技を開催する当事者として、（組織委員会には）できるだけ早く基本的な安全対策の方針を具体的に示していただいて、それに向けて万全な準備をしていくこと、最善を尽くすことが大切だと思います。

組織委員会には、日々そういった状況を伺っているところです。バブル方式などの方向性は伺っておりますが、一番大事なことは、観客の皆さんをどうするかということに尽きるかと思えます。こういった点について方向性を速やかに出していただくようお願いしつつ、また我々としては様々な仮定を置いてシミュレーションし、どうしたら県として最善を尽くすことができるのか、しっかり検討を深めていきたいと思えます。

2 新型コロナウイルス感染症への対応について

【記者】

会津若松市について、一時期は国にまん延防止等重点措置を要請するまでに至ったとは思いま

すが、現在、そのまん延防止等重点措置の要請がどのようになっているかについて伺います。

また、県の独自措置でここまで改善したことについて、県としての評価を併せて伺います。

【知事】

現在、会津若松市は「人口10万人当たりの1週間の新規の陽性者数」が21.70人というところまで来ておりますので、この状況下においては、まん延防止等重点措置の適用をお願いする状況にはないと考えています。

ただ、いずれにしても、まだステージ3のレベルにありますので、県としては、今後とも会津若松市や室井市長さんたちと連携して、ステージ2の段階まで、安定的に下げていく努力を続けていきたいと思っております。

実際、この折れ線グラフを見ていただくと分かりますが、まん延防止等重点措置の議論については、正にこの急拡大している段階で、政府に対してお願いしておりました。当然ながら、県としての独自措置を行いつつ、是非、まん延防止等重点措置を適用して欲しいという話をしていますが、結果として、様々な指標を他県と比較され、本県は適用されませんでした。

その結果、私どもは県全体での非常事態宣言ということになっておりますので、やはり、まん延防止等重点措置が、知事の判断の下で、政府ができるだけ迅速に対応していただくことが重要だという思いは変わっておりません。

ただ一方で、県独自の対策でここまで全体として下げることができたということは、正に県民の皆さん、事業者の皆さんの頑張りのおかげであると思っておりますので、この点について、改めて関係していただいた全ての皆さんに対し、本当にありがとうございましたという感謝の意と、御迷惑をお掛けして申し訳ありませんでしたという思いを、表したいと思っております。

ただ、これで全てが片付いたわけでは全くありません。今後、大事な柱は二本だと思っております。

一つは、先ほどお話ししたリバウンドを防止するという事、そしてもう一つは、ワクチン接種の促進です。この二本柱について、県としては是非、力を入れたいと思っており、リバウンドの防止は、県民の皆さんや事業者の皆さんに対して、基本的な感染対策をしっかりとやっていこうというメッセージを出し続けることでもあります。

もう一つのワクチンの接種であります、高齢者向けのワクチン接種を7月末までに終わらせる、これがまずは、国を挙げての目標であります。残念ながら今、福島県内の59市町村の中で、二つの団体が、7月末で完了できないと聞いておりますが、これを何としても7月中にできるように、県としてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、高齢者接種をやって終わりではありません。私自身、今、各自治体を回って、ワクチン接種の状況を生で聞いております。順調に進んでいる自治体は、もう今月中から一般の方への接種を積極的に行っておられますし、次に向けての手続き、どういう優先順位でやっていくかということ、積極的に議論していただいております。さらに、今も順調な上に、より早めたいということで、地域におられる医療経験者、医師の方、あるいは看護師の方を更に巻き込んで、また別のラインをつくって、より早く終わらせたいということで、リーダーシップをとっている首長さんもおられます。

ある意味で、ワクチン接種を早くしようという競争が起きることは重要だと思っておりますし、また、遅れている市町村には、広域自治体である県が、全面的に、てこ入れをします。

そして、頑張っているところの事例をできるだけ多くの方にモデル事例として発信する中で、そういう競争は大歓迎なので、ワクチンを早く打てば打つほど、感染拡大防止になり、その後の地域経済や地域社会を明るくしていく根幹になると思っておりますので、ワクチン接種促進にも並行して力を入れていきたいと思っております。

【記者】

ワクチン接種の優先順位について伺います。日々の取材で感じるのですが、県内で医療関係者は順調に進んでいると思っております。一方で、介護職員に関して、施設職員は進んでいると思いま

すが、訪問介護事業者が、中々順番が回ってこないという声を聞きます。

これは、県内に複数、結構な自治体がありまして、「医療関係者や看護師等は（接種が）終わっているのに、現場で看護師が終わっていても（介護を受け持つ）自分は終わっていない。ただ、看着いる高齢者は一緒であり、かつ、寝たきりの高齢者が多く、その中で、不安に駆られながら、万が一自分が感染して、万が一（高齢者が）亡くなってしまったらどうしよう」という不安の声、福島市や郡山市、いわき市とあちこちで聞かれます。接種の優先順位については、市町村によるものが大きいと思いますが、現状の受け止めに伺います。

【知事】

今の御意見、同じ思いであります。

特に、本県では、コロナの感染が拡大して以降、例えば福島市の病院や、南会津町の高齢者介護施設などでクラスターが発生したことにより、結果として非常に多くの方が亡くなるなど、大変厳しい状況になりました。

恐らく（感染の）入口は、働いておられる方ということも十分あり得ると思います。そういう意味で、今お話のあったような、訪問介護も含めて、高齢者の方と接触する確率の高い方々に、できるだけ早くワクチンを接種していただくことが極めて重要だと思います。

これまで、各市町村において、国から支給されるファイザー製ワクチンの枠の中で、かなり弾力的に接種を進めていただけていますが、当初はワクチンの供給が潤沢ではありませんでした。そのため、中々厳しい部分がありましたが、現在はかなり潤沢に供給されています。したがって、パイとしては十分出てきていると思います。実際、（高齢者施設の職員へ接種を）行っている自治体もあります。

ただ一方で、特に大規模な自治体ほど、高齢者（への接種の）対応で手一杯というところもあるかと思えます。

なぜ高齢者の方を優先して（接種して）いるかと言えば、重症化する割合が高いからです。

さらに、重症化する割合が高い（高齢者への感染の）その入口が、関わっていただいている職員の方という可能性がありますので、今後とも県としては、高齢者に関わる方に優先的に打っていただくということについて、既に話していますが、（市町村へ）お話していききたいと思います。

また、しっかり取り組んでおられる自治体のモデル的な例も見いただながら、まず、高齢者に関わる方々へワクチンを接種することによって、全体として柔らかな防御網ができ上がっていくと思います。そういった意見（を頂き）、県として、各市町村に対し、丁寧に、実情が大分違いますので、実情に応じて、きめ細かに対応していききたいと思います。

【記者】

会津若松市について、先ほど知事がおっしゃったとおり、ステージ3の水準に入ったものの、安定した状況とは言えないということでしたが、改めて解除の理由を伺います。

【知事】

この1週間、悩みました。そもそも、先週の金曜日の段階でも、一進一退ではありますが、ある程度下がったという見方もありました。ただ、その時は、明確にステージ4の水準を超えており、（新規陽性者数が）30名レベルだったと思います。ステージ4の基準は25名ですから、結構上の方でした。ただ、現在は21.70人で、明確に減少しています。

そして、こういった時間短縮要請や外出しないでというきついお願いをしている根源は、病床使用率です。地域の病院のベッドがどれくらい埋まっているのかという点。今ですと、（会津地域では）ようやく5割を切ったところではありますが、県全体でいうと、30%水準まで下がってきています。元々（病床の）広域調整を行いたくはないのですが、病床使用率は、県全体で90%だった時に比べると、現在は30%台なので、非常に余裕が出てきています。

したがって、会津地域において、解除して、仮に幾ばくかの感染拡大があったにせよ、県全体

では十分受けられるし、また会津地域としても、ある程度の幅を持って受入れられるということが念頭にあります。

その上で、会津若松市の場合は、先月、5月1日にこの場で、時短要請をかける、市民の皆さんに外出をしないでくれというお願いをして、3日から発動しています。もう1か月以上、この不便な生活を続けていただいておりますし、その中で、間違いなく、市民の皆さんの御努力で低減傾向が見られるわけですので、もちろんステージ3を下回るまで駄目だというやり方もあるかもしれませんが、やはり市民の皆さん、事業者の皆さんのこれまでの頑張り、努力、そして先ほど申し上げた感染状況と病床の使用率を、総合的に勘案すれば、この1週間で、一旦、この状況を区切って、その上で、室井市長さんが、「この後も気を緩めることなく、市独自でしっかり頑張っ、もっと下げていくように頑張ります」というお話をされました。

私自身は市長、あるいは市民の皆さんが、そういった対応をしていただけると信じておりますので、今後は県全体の重点対策に移行していきたいと考えております。

(終了)